

出題形式練習 解答・解説

解答は下の QR コードからも見ることができます

P33

1

- 1、①貢献 ②尊敬 ③就職 ④筋道 ⑤登録
2、①えつらん ②するど ③ねば ④ちんれつ ⑤あわ

2

- 1、①堆積 ②航海 ③報道 ④預 ⑤簡易
2、①げんしゆく ②とどこお ③もよお ④せんさく ⑤とほ

P34

3

- (ア) 3 (イ) 1 (ウ) 2 (エ) 4

- (ア) 体言十の十体言(世界十の十物質、空十の色)
(イ) 「たゆまぬ」は、油断しない・心がゆるまないこと。
(ウ) 「豊かに」は「豊かだ」と言い切れるので、形容動詞。
(エ) 十行目以降に書かれている。

P35

4

- (ア) 2 (イ) 3 (ウ) 2

- (イ) 「弊害」何かをしたために生じる悪いこと。
(ウ) 最後の段落に理由が述べられている。

P36

5

- (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 3
(エ) 地球が数百年前の気候に戻ることは期待できない
(二十二字)

- (ア) 「多い」「寒い」は形容詞(終止形が「い」で終わる)。「大きな」は連体詞
(イ) 「静かだ」は形容動詞(終止形が「だ」で終わる)。「歌う」は動詞(終止形がウ段の音で終わる)。
(ウ) 「追隨を許さない」は、群を抜いて優れていること。
(エ) 最後の段落にまとめられている。

6

- (ア) ①おもい ②ように
(イ) 3
(ウ) 2

- (ア) 「ひ」は「い」、「やう」は「よう」に直す。
(イ) 蝸牛を食べたい鷲が、鳥からその方法を教わるという本文の流れをおさえつつ、傍線部の前後の文脈から読み取る。
(ウ) 鳥が「蝸牛を高さ所より落し給はば、その殻、忽ちに砕けなん」と助言していることから、殻を割って中身を食べたいのだと判断する。

(訳) ある時、鷲が「蝸牛を食べたい」と思ったけれども、どうしたらよいか知らなかった。(鷲が)悩んでいるところに、鳥がそばから進み出て申し上げたのは、「この蝸牛の殻をなくすことはとても簡単なことでございます。私が申しますようになさったあとに、私にその半分を与えてくださるならば、教えて差し上げましょう」と言った。鷲は同意してその方法を聞くと、鳥が申すには「蝸牛を高いところからお落としになれば、その殻はすぐに砕けるでしょう」と言った。すぐに、(鳥)の教えのようにすると、提案通りに簡単に蝸牛の殻を取って、これを食べた。

7

- (ア) ①いうよう ②うかがい
(イ) 2
(ウ) 2

- (ア) 「ふ」を「う」に、「やう」を「よう」に、「ひ」を「い」に直す。
(ウ) 「馬耳東風」ばじとうふう いかげんに聞き流すこと。
「本末転倒」大切なこととつまらないことを取り違えること。
「首尾一貫」しゅびいつかん 物事の最初から最後まで、方針や考え方が変わらずに通っていること。

(訳) 高橋作左衛門は、天文学に優れていたので登用されていた。庭に大きな柿の木があった。毎年秋にその柿を売って少しのお金を得ていた。ところが、その辺の若者が、夜盗みに来るのが何度もあった。柿の実の守りのために安心して眠れないので、作左衛門は夜眠らずに見回っていた。ある時帰宅して見ると、あれほどの大木が根元から切り倒れていた。作左衛門が「これはいったいどうしたことか」と驚くと妻が「私が切らせたのです」と言った。「どうしてそのようにしたのか」と問いただすと「あなた様は天文学で家をおこしなさるはずです。それなのに夜ごとに屋根にのぼり、天空を見上げ深夜に至り、柿の木を見張ることに神経をすり減らしておられます。もしこの木がなければ本業に専念できると思います、このようにしました」と言ったということである。